
墮天使にご用心！

スエ丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

堕天使にご用心！

【Nコード】

N4487A

【作者名】

スエ丸

【あらすじ】

堕天使ユイナに振り回される原田勇也、彼の幸せはいつ来るのだろうか？

プロローグ

この世には三つの世界が存在する。

私達人間が住んでいる人間界、そしてあとの二つは天界と魔界

天界と魔界は別々の世界だが別に二つの世界は対立をしていないし二つの世界を行き来することもできる。

二つの世界にはたくさんの学校があつて卒業後天界か魔界に就職する。

天界の仕事は主に人を幸せにする事

魔界の仕事は主に死後の魂の世話をする事

この話は天界で仕事を失敗した天使が天界を追い出され人間界に降りた所から始まる……………。

墮天使と僕

僕の名前は原田勇也、十四歳。今日もいつものように朝六時半に起きる真面目で健全な中学二年生の男子です。

そうなのです、僕は真面目な男子生徒。クラスでも人気であるわけでもなく、かといってイジメられているわけでもない普通の位置にいて、好きな人がいても告白もまだ出来てない思春期まつ盛りの男の子、当然のごとく今まで不純異性交流もしてない男です。

それなのに朝起きると隣には可愛い少女が寝ているではありませんか

その少女は髪の長さはセミロング、色はクリーム色、小柄な可愛い女の子ってそんな事解説している場合じゃありません！

今は冷静にならなければ……確か昨日は両親が結婚記念日で旅行に行ったのを見送って、その後テレビを見て、お風呂に入って、宿題をして、寝たはず……やっぱりこの女の子が出てきません。考えても答えは出てこないのので起こしてみることにしました。

僕は誤解が出ないようにベットから降りて彼女の体を揺さぶりながら

「おーい、起きてくださいーい」

すると彼女が起きましたが、その瞬間彼女が悲鳴を上げさっきの行動は無意味だったと反省している僕を平手打ちするではありませんか。しかもその威力は半端なく僕はその平手打ちに負け部屋の端へと転がっていきました。

そして、彼女は赤面しながら口を開き

「勇也君の変態ー!!」

その言葉に僕は驚きつつ

「な、なんで僕の名前を知ってるの！？あとなんで僕の部屋しかも僕のベットで寝てるのさ！？」

彼女はキョトンとしながら何かを思い付いたかの様に手を叩き

「私は天界から追い出された堕天使ユイナといいまーす」

残念、彼女はどこか頭をぶつけています。会話が成立しません。

「ユイナさん、堕天使っていきなり言われても信じられないよ。とにかく今警察に連絡するからおとなしくし……」

僕は話すのを止めて両手を挙げました。彼女は漫画で天使が使っているような矢の先端がハート型になっているキュートな弓矢をこっちに向けているではありませんか！

「私は堕天使だよ？証拠にほら空を飛べるんだから、あと私の事はユイナちゃんって呼んでね？」

彼女はそういうと弓矢を構えたまま空を飛び始めました。僕は堕天使から向けられる弓矢の恐怖し今の事態を理解しました。

「ユイナちゃん、堕天使というのはわかったからその弓矢をしまつてよ」

彼女は僕の言葉を聞くと弓矢をしまい始めました。

僕はそれを見て話、始めました

「あの、何で僕の名前を知ってるの？」

「あゝそれは私が墮天使になる前のお仕事が勇也君でその書類を持
つてたから知ってるんだ」

「じゃあ、僕の部屋で寝ていたのは？」

「それはここに着いて勇也君が寝てたから私も眠くなって寝ちゃた」

彼女は舌をちょぴり出して笑顔で元気に答えます。

「なんでユイナちゃんは天界を追い出されちゃったの？」

「私ちよつとお仕事を失敗しちゃって、それで失敗した子に謝りと
護衛に来たの」

「へえゝそれは大変だね、その謝りに行く家は近いの？」

「う、うん……………あの、その……………勇也君ごめんなさい」

彼女はいきなり謝りし始めた。僕はその意味を理解し

「あのゝ、僕に対してどんな失敗を起こしたんだい？」

「実は……………勇也君に「同性から恋愛対象として好かれてしまう矢」
を射っちゃたんだ」

「えっ？」

こうして僕の男から好かれ日々が始まった……………

墮天使と登校

僕は原田勇也、十四歳。顔は童顔だけど女の子に間違われた事はない普通の中学生。

あと、お約束の眼鏡はかけてない普通の中学生。

でも、今は違う。いつもの中学校へと続く道を歩いていると色々なところから男達の熱い視線を感じる。これはきつとあれだ恋する男達の視線だ。

ここで一つ話しておきたい事があります。僕は決してホモではないこと、これはみんなに一番にわかって欲しいことだよ？

「勇也君、元気ないね？そんなことだと男たちに貞操を奪われちゃうぞ」

そして、この可愛くウインクをして恐ろしいことを言う女の子は、僕が男達に熱い視線を浴びる事の原因となった。（駄目な）墮天使ユイナちゃんです。

しかも僕の学校の制服を着ています。

えっ？なんでこんな事になってるかって？

では朝のことをお話ししよう……

【回想はじめ】

僕はユイナちゃんからの言葉に耳を疑った

「えっと、今「同性から恋愛対象として好かれてしまう矢」って聞こえたんだけど……」

「うん、そっだよ?。」

ユイナちゃんは平然に言いました、僕は微かな殺意を覚えたがこれは閉まっておこう。

なぜなら彼女の方が強いからである、もうどうしようもない力関係が決まりつつあるなかで僕は言いました。

「あのさ、それって治るよね?。」

「治ることは治るけど効果が消えるのは一ヶ月後なんだ」

ユイナちゃんは元気よく答えます。僕はそれでもくじけません。だって男の子なんだもん

「じゃあ護衛っていうのは?。」

「私が勇也君を男の子から守るために決まってるじゃん」

ユイナちゃんは親指を立て元気に答えます。そんなユイナちゃんを見て、僕は一つの疑問を感じました。

「僕が学校にいる時の護衛はどうするの?。」

「私も学校に行くよ?。」

「でもユイナちゃんうちの学校の生徒じゃ……」

「うん、だから勇也君と同じ学校に転入するんだ」

僕は頭を抱えた……

【回想終わり】

それじゃあ、話をもどします。

「でもその人達から守ってくれるのがユイナちゃんの仕事でしょ？」

「勇也君はこんなか弱い女の子に自分を守らせる気なの？」

ユイナちゃんは目を潤ませて僕に言います。しかし、僕は騙されません。だって後ろに隠した目薬を見たから

「まあ、か弱いつて事にしておくけどユイナちゃんは僕達人間と違ってなんか不思議な力を持っているんじゃないの？」

「私、墮天使だから空を飛ぶことと弓矢しか使えないよ？」

「飛ぶことと弓矢ねえ……ってそんなんじゃ護衛が勤まるの!？」

僕は焦りました、いくらユイナちゃんが怪力とはいえ大勢の男がきたらいくらユイナちゃんでも僕をかばう事はできないと思ったからです。

しかし、ユイナちゃんは笑顔で答えます。

「大丈夫だよ、そんな時はこの「違法改造天使弓矢ノブナガ」があるから」

「違法改造ってまさかユイナちゃんが墮天使になった原因で……」

「うん、ノブナガが原因なんだ」

ユイナちゃんは少し照れながら答えます。

「じゃあ、神さまに堕天使になってから僕の護衛をしろって言ったの？」

「そうだよ、神さまって酷いよね。でもこの護衛任務が終わったら天使に戻してくれるんだ」

彼女はひとごとのように（確にひとごとだけど）答えます。

この日、僕は神さまをこんなに呪った日はありません……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4487a/>

堕天使にご用心！

2010年10月9日07時35分発行